

記入内容を下記にまとめます。

まず、勤務先が複数ある場合、それぞれの勤務先毎に作成をしてください。

①申請年月日

申請年月日は和暦で記入してください。

②氏名

住民票上の氏名を正確に記入してください。

③勤務先

建築実務を行った勤務先の名称（部課等がある場合は部課名の名称）を正確に記入してください。

④所在地

勤務先の住所を都道府県から番地、ビル名等まで正確に記入してください。

※免許申請時に当該勤務先が移転している場合は、移転後の住所を記入してください。

⑤在職期間の合計

「③勤務先」における入社から免許申請時までの在職期間とその年月数を和暦（年号はアルファベット）で記入してください。

⑥在職期間

「⑧建築実務の内容」で記入する建築実務を行った期間とその年月数を和暦で記入してください。

⑦地位職名

「⑧建築実務の内容」で記入する建築実務を行った際の地位職名を記入してください。

地位職名がない場合は、記入漏れとの区別のため、「－（ダッシュ）」を記入してください。

⑧建築実務の内容

「対象実務の例示・コード表」（※ホームページ内参照）内における対象実務の例示①～⑭から選択し記入してください。

⑨建築実務経験機関の合計

「⑭年月数」の合計の年月数を記入してください。その際、「⑥在職期間」の年月数の合計と一致していること。

⑩対象物件の名称等

物件の名称等を具体的に記入してください。

建築実務が物件名で示せない場合は、行った建築実務の内容を簡潔に記入してください。

なお、業務上の秘密保持や個人情報保護の観点により具体的な物件名称を記入できない場合は、イニシャル等を用いて記入してください。（例：佐藤邸→S邸）

⑪対象物件の所在地

「⑩対象物件の名称等」で記した物件の所在地を正確に記入してください。

所在地が示せない建築実務である場合は、記入漏れとの区別のため、「－（ダッシュ）」を記入してください。

⑫建築実務経験期間

当該建築実務を行った期間を年月まで和暦（年号はアルファベット）で記入してください。

⑬建築実務の割合

「⑫建築実務経験期間」に、建築実務の対象となる業務を行った割合を記入してください。

なお、建築実務に該当しない業務や在職中であっても実際に建築実務を行っていない期間がある場合は、その分の割合を除いて記入してください。

⑭年月数

「⑫建築実務経験期間」に「⑬建築実務の割合」を乗じて算出した年月数を記入してください。

（例：R2年4月～R2年9月（6ヶ月）×50%＝3ヶ月）

⑮実務経験の対象となる業務の内容

[]内に「対象実務の例示・コード表」（※ホームページ内参照）より、「⑧建築実務の内容」にて記入の該当コードを記入してください。

実務経験の対象となる業務の内容を、用途・構造・規模等を踏まえ、担当した作業内容がわかるように具体的に記入してください。

実務経歴書に記入可能な実務（3 つまで）を記入しても免許登録申請に必要な実務経験年数を満たしていない場合、実務経歴書を複数枚に分けてご記入いただき、2 枚目以降を（4）、（5）、（6）としてください。
または、末尾（3）の「⑤実務経験の対象となる業務の内容」欄に、下記の例文のように実務をまとめて記入していただいても結構です。

例：H〇年〇月からH〇年〇月までの〇年〇ヶ月は、住宅の新築工事の工事監理補助業務を〇件担当した。

※その他、記入における注意事項を下記にまとめます。

●コード番号について

令和 2 年 3 月 1 日以降と令和 2 年 2 月 29 日以前、さらには平成 20 年 11 月 27 日以前では適用されるコード番号が異なります。記入にあたっては実務期間によってコード番号を書き分けてください。

例：建築物の設計に関する実務の場合、平成 20 年 11 月 27 日以前に行った実務は「**1 A - 0 1**」、
平成 20 年 11 月 28 日から令和 2 年 2 月 29 日に行った実務であれば「**1 B - 0 1**」、
令和 2 年 3 月 1 日以降に行った実務であれば「**1 C - 0 1**」を記入してください。

また、令和 2 年 3 月 1 日を挟んで実務を行った場合は、令和 2 年 2 月 29 日以前のコード番号を記入してください。
この場合は、申請される実務が令和 2 年 2 月 29 日以前も対象の実務に限ります。

例：建築物の設計に関する実務を令和 2 年 1 月～令和 2 年 5 月まで実施していた場合、「**1 B - 0 1**」と記入してください。

●同一物件で複数の実務を行っていた場合

同一の物件について設計業務（1 C - 0 1）と工事監理業務（2 C - 0 1）を行っていた場合、1 つの欄に記入するのではなく 2 つの欄に書き分けてください。

●同一期間に異なる物件で実務を行っていた場合

異なる複数の物件（A 物件、B 物件の 2 件）について、いずれも工事監理業務を行っていた場合、1 つの欄に記入するのではなく 2 つの欄に書き分けてください。その場合の建築実務の割合は、例えば A 物件 60%、B 物件 40%と記入してください。実務経験年数は、建築実務の割合を用いて算出してください。